

## 最後に

J.I.I.の概況と今後の課題について述べてきたが、我々酒類・食品業界における商品 DB については約 20 年という非常に長い時間をかけて取り組んできたにも関わらず、まだまだ成長途上に過ぎない。これは時間の経過と共に、業界環境変化、IT 技術進展、新サービス創出等が進み、DB 基盤に対する要望が日々変化していることに起因する。

したがって、今後もさらに種々の新たな取組みが始まることが予測されるが、J.I.I.は関係者の総意に基づく事業構造改革の取組みを進め、他 DB との更なる連携強化によるワンシンク体制の実現、その原動力となるデータ登録企業と利用企業両面の拡大、そして新たなサービスの提供を通じて、業界の一層の合理化と標準化に寄与していく所存である。

## 支部活動

# 第12回実務研修会開催

## — 近畿支部 —

近畿支部は、9月18日(木)大阪府食品卸同業会と共催で「第12回実務研修会」を大阪市都島区の太閤園で開催し会員、賛助会員 180 人が出席した。開会に先立ち、大阪府食品同業会会長の大釜賢一氏(伊藤忠食品(株))は、「今日はユーグレナの出雲 充社長にご講演をいただくが、バイオ燃料、食品、化粧品、環境技術などにミドリムシを活用しようと研究開発が進められており、ミドリムシを使った食品が大変数多く出てきつつある。われわれも食の安全・安心、おいしさを追求して人類の発展に寄与していきたいということで一生懸命やっているが、このミドリムシは、われわれ食品業界にとっても非常に将来性があると思っている。ぜひ協業ができる案件があれば、伊藤忠商事やユーグレナさまに直接お話していただき、新しい商品開発ができれば、われわれも地球を救うお手伝いができるのかなと思っている」と挨拶した。この後、出雲ユーグレナ社長が「僕がミドリムシで世界を救うことに決めました」をテーマに講演した。「ミドリムシ」(学名:ユーグレナ)は虫ではなく、昆布やワカメの仲間の藻の一種。動物と植物の両方の性質を持ち、ビタミン、ミネラル、アミノ酸、不飽和脂肪酸など 59 種類もの栄養素を備えている。光合成によって二酸化炭素を固定して成長する時、油脂分を作り出しており、バイオ燃料の元としても利用可能。ミドリムシの驚くような可能性から現在、様々な分野で研究が進んでいる」と講演された。



近畿支部実務研修会会場

# 第7回商品セミナー開催

— 東海支部 —

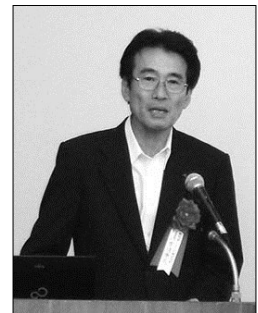
東海支部は中部食料品問屋連盟と共催で商品セミナーを8月26日(火)、午後2時より名古屋国際会議場に於いて開催した。



開会の挨拶をする  
西山徹氏

開催にあたり西山徹氏(中部食料品問屋連盟常任理事、日本加工食品卸協会東海支部会計監事)が「商品セミナーは今回で7回目となる。今まで遠く感じていた『ハラール』という言葉が最近では身近なものとなっている。また、食品表示をはじめとして食品業界を取り巻く環境は変化を続けている。今回の講演が役立つものとなって欲しい」と挨拶を述べた。

第一部は井村屋シーズニング(株)の菅沼重元代表取締役社長が「ハラール認証の概要と弊社事例紹介」のテーマで講演。イスラム教においてアッラーが認めた合法的なものである『ハラール』の日本国内の市場規模や将来性、認証の概要、同社の取り組みなど説明した。年々重要性を増すハラール認証に対する参加者の関心は高く熱心に聴き入っていた。



講演する  
井村屋シーズニング(株)  
菅沼重元代表取締役社長

第二部は(株)トーカンの市野文則執行役員品質環境管理室長が「食品表示法公布後、施行への動き」のテーマで講演。現行の食品表示に関する法律と、新たな食品表示法の目的と変更点を詳細に解説。食の安全・安心がさらに重要視されるなか、食品表示は大きなポイントとなる。流通各層の注目度は高く参加者は熱心に聴講していた。



市野文則執行役員品質  
環境管理室長



商品セミナー 会場